

Muse

大音生活にもっと“キラリ”を【ミューズ】



全日本吹奏楽コンクール全国大会常連校を育て上げる秘訣とは？

見どころ
ピックアップ!

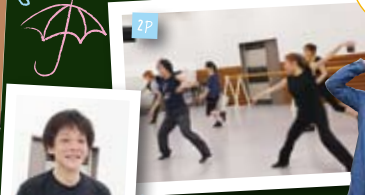
音楽と生きる
渡辺 秀之さん



特集
音楽大学で学ぶ
ダンスパフォーマンス!

ダンスも音楽も好きな人は必見!

音楽と生きる
西垣 良美さん



「和太鼓 松村組」でマリンバを担当。全国各地でコンサートに飛び回る生活!



北浜 竜也先生にインタビュー!



印藤さん(フルート)の1日を追いかけました!



印藤さんに密着!

「研究室訪問」は声楽の松田昌恵教授のレッスン室におじゃましました!



大音生リアル
練習時間総編

その他にも……
演奏会の情報や連載など読み応えたっぷり!

NEWS Index



CONTENTS

08 大音生リアル
練習時間(管楽器)編

09 Concert Report
吹奏楽演奏会 他
新任教員紹介
資格変更教員
法人役員一覧

10 NEWS Index
・研究室訪問
・Daion Report
・大音生なら必ず聴きたい100曲|中村孝義
(音楽学・理事長) 他

13 キラリ★輝く
大音の星
・コンクール受賞
・NEWリリース
・Topics

14 CAMPUS
Information

15 演奏会
Information
6月~10月

16 ・下手の考え
休むに似たり
~学長日記~
・教員リレーエッセイ
石橋 栄実
(声楽・准教授)

**真摯にダンスと向き合う2年間
それが「幸せにつながる道」
づくりです**

—昨年、大阪音楽大学短期大学部にダンスパフォーマンス・コースが新設されて2年目に入りました。

入学してくる学生は非常に志が高く、しっかりと目的意識を持っていきます。「踊りたい」「うまくやりたい」という明確な目標があるから、上達も早いし、教える側としてもとてもやりやすい。体のちよつとした動きや筋肉の使い方など非常に細かいことを心ゆくまで教えられるこの環境は、やはり大学ならではのでしょうね。

—ダンスを大学で学ぶことの意義は？

「襟を正して」と言ったら大げさかもしれませんが、教える側も教えられる側もまずダンスに向かう姿勢が大きく違います。僕は専門学校でも教えた経験があるから言えるのですが、「学生」というこの区切られた2年の期間は、ある意味「大学」という守られた環境の中のびのびと思いつきり学ぶことができます。入学してから2年後には卒業しなければならぬ。「卒業したら」どうするのか。この2年の間に真摯にダンスと向き合いな

らダンスというのは音楽あつてこそ成り立つもの。音楽が鳴ったら踊りたくなる、踊るためには音楽が必要。ダンスをする人は音楽性が不可欠です。テクニクだけを追求していったら、それはダンスではなく「体操」です。ダンスには感情があり、その表現があります。それは音楽あつてこそなのです。

**学ぼうと思えば
いくらでも学べる**

—「ジャズダンス」をベースに「クラシックバレエ」「モダンダンス」「日本舞踊」を学べるカリキュラムが特徴的ですね。

まず、「ジャズダンス」をベースにしている点がほかにはあまりないコースと言えます。その上で「軸をきちんととる」「スクエア（腰骨と肩骨の4点を囲んだ部分）を守る」など、体のベースとなる芯をしっかりつくるためにはクラシックバレエが良い題材になります。また、バレエ独自の専門用語があり、例えば卒業後に外部でダンスに関わっていく上で、必ず覚えておかなければならない知識です。「クロワゼで立つ」と言われて「クロワゼって何?」じゃ話にならないわけです。

「モダンダンス」は、クラシックバレエを前衛的にしたもので、1950年代以降にアメリカでできました。ダンスにはもちろん流行り廃りがあり、

から結論を出す。ダンスの道に進むか、それ以外の道を選択するか。どちらにしても幸せにつながる道を見つけていかなければならない。僕は彼らの「卒業後」のことを大前提にしながら2年間の指導をしています。練習には苦しみやつらさも伴うかもしれない。でもその先に、「上達」や「成果」があるんだということを教えます。親身になって相談にも乗るし、心のケアも大切にします。

**音楽性は不可欠
だから音大で
ダンスを学ぶ**

—音楽大学という環境で学ぶダンスはほかとは違いますか？

振り付けするのにスコアくらい読めないし(笑)。まずそこですよね。昔は音源が簡単に手に入らなかったこともあつて、スコアを見ながら振り付けを考えていくことが多かったから、読めることが当たり前でした。でも最近は、すぐに音が聴ける環境にあるので、逆にスコアを読めない振り付け師が多くなってきたのが現状です。しかし、振り付けする上で「このフレーズにはこの振り付け」と、まず譜面上で考えられる人は相当に有利です。何し

「新しいものを追い続けることだけに囚われる必要はない」というのが僕の持論ですが、美的感覚を養う意味でモダンダンスが必要だと思っています。「日本舞踊」に関しては言わずもがな、「日本人であること」「日本ならではの美意識」を大切にしたいという思いから花柳流のレッスンを設定しています。

—さまざまなダンスを学べるということですね。

学ぼうという姿勢で臨めばいくらでも学ぶことができる。これは大阪音楽大学ならではのと言えるのではないのでしょうか。一つのことだけを集中的にやるのもいいけれど、一見自分のやりたいことと関係ないと思えるようなことでも、例えば卒業後に何かのきっかけで思い出してもう一度学びたくなるかもしれない。そんな時はまた大学を訪ねてもらえばいい。ダンスパフォーマンスコースには、そんな将来像も描いているんです。



特集

音楽大学でダンスを学ぶ

**ダンス×
音楽の
特別な
関係**

2012年度、
大阪音楽大学短期大学部に
「ダンスパフォーマンス・コース」が
新設。レッスン・授業の特徴、
大音だからこそ学べるダンスとは？
コース担当・北浜竜也講師に
伺いました。

北浜竜也 講師

Profile
きたはま たつや ● 20歳よりダンス全般を宮崎渥巳氏に師事し、またクラシックバレエを後藤早智子氏に、日本舞踊を花柳若奈氏に師事する。舞台・TV・コンサート等の歌謡ショー、さまざまなミュージカルやディズニーランドのメインショー等、多岐にわたるシーンにて経験を積む。現在は、数々のダンスカンパニー公演の客演や日本振付家協会主催公演出演、日本ジャズダンス芸術協会主催公演の主演等、舞台を中心に活動。また、自らダンスグループ「エムフェローズ」を主宰し、公演を開催する。さらに宝塚歌劇団、小椋佳プロデュース・アルミュージカル等の振付助手を務める傍ら、後進の育成にも力を入れる。日本ジャズダンス芸術協会常任理事。

**ダンスパフォーマンス・コースを
体験・見学するチャンス!**

7月7日(日)にオープンキャンパスが行われる大阪音楽大学でダンスパフォーマンス・コースの無料体験レッスンが行われます。ひと足早く大音生になったつもりでプロのレッスンを体験しませんか? もちろん見学だけでもOK。レッスン後には在生によるダンスパフォーマンスもあります。体験レッスンのお申し込みは大阪音楽大学のHPをご覧ください。



●ダンスパフォーマンス・コースとは?
多種多様なダンス界において通用する、核となる肉体づくりとさまざまな動きを徹底して学び、研鑽することを目的に2012年度大阪音楽大学短期大学部に新設。「ジャズダンス」をベースに「クラシックバレエ」「モダンダンス」「日本舞踊」を各ジャンルの実力派現役ダンサーによるレッスンをを行っています。

日本一短い練習時間と 日本一深い努力で 全国大会へ！

「石ころと一緒に帰れ。石ころをコロ
がしながら石ころと話をせえ。音符
も一緒や」

「床に自分の姿が映るように一生懸命に磨け。音も一緒や」

生徒たちに話している言葉の一つです。

私は教育の土台として「感性」「知性」「品性」という3つの「情意力」の育成を大切にしています。吹奏楽の指導にあたっては、演奏面はもちろんのこと、大人になって役に立つであろう、社会性や人格面も大切に考え、総合的に全国レベルの生徒を育てる。課題意識や「集中力」「努力」、そして「短時間練習」は全国大会へ出場しているバンドの中で一番かも知れませんが、物言わぬものに対しての優しさ、思いやり、一つの音符に愛情を込めること。良い音が出せなかった時、いい音が出せなくてごめんね」と楽器と話ができる心、石ころと話ができる感性が大切です。無造作に音を出して良いとするような感覚は、育んでほしくありません。音楽、吹奏楽指導の中には、生きていく上で大切にすべき共通点がたくさんあります。

友達と夢を語り合った 大学生生活

母が音楽好きだったこともあり、小さい頃はピアノやヴァイオリンを習っていました。音楽は好きでしたが、真面目とは言えず、練習は長続きしませんでした。この頃から、コツコツ練習するのはやはり苦手だったようです(笑)。小学校高学年の頃に楽器もやってみようかと思いましたが、井清幸先生(現大阪音楽大学名誉教授)と出会うことにもつながりました。辻井先生は、君はオーボエが合うと思う」と言ってくれました。なぜそう思われたのか定かではありません。オーボエという楽器は見ますが、これを契機に興味をわき、その

渡辺 秀之

宝塚市立中山五月台中学校
主幹教諭・吹奏楽部顧問



人の役に立ち、 生きがいになる 素晴らしい仕事

てたいと日々考えています。演奏活動と同じように、学級や学校生活の中でも当番活動や係り活動を大切に、周りへの気配り、心配りのできる吹奏楽部員の感性は、学校だけでなく地域からも評価していただいています。このことが全国大会に参加する際にも、応援していただける理由だろうと思います。「全国大会に出場できる秘訣は？」とよく聞かれますが、「秘訣はない」というのが私の答えです。秘訣がないことに気づくことが秘訣だと言えるのかも知れません。コツコツやる以外に方法は無いのです。大学時代、このことを一番苦手としていたのは私自身でしたが……(笑)。

本校の部員は、本当にひたむきで一

後はオーボエ一筋。高校の頃には音楽大学へ進みたいと思うようになり、当時、大フィルのオーボエ奏者で大音の大先輩にあたる佛田先生の門を叩きました。さらに当時、大音に教えにいられた新日本フィルのオーボエ奏者、鈴木清三先生に師事したという一心で大音への受験を決めました。もう大音以外は頭にないという感じでした。迷いは一切なかったです。当時の大音は、今と比べて管楽器の学生も少なく、良い意味でとてもこじんまりした空気が流れていました。夜遅くまで大学で練習したあと、先生や先輩と食事に出かけ、多くのお話を伺えたり、夢を聞いてもらったり。またほかの楽器の先輩(現管/打教授などの先生方)からも体験談など貴重なお話をいただいたり、温かい交流が盛んでした。とても楽しい思い出です。4年生のときには、東京からいらしていた鈴木先生を空港までお迎えに行くという役割を担います。お出迎えし、車で大音にお連れするのですが、その間にいろいろなお話を聞けるんです。それも嬉しかったですね。

大音の卒業生で 本当に良かったと実感

大学2年生の頃からでしょうか、進路として「教師」になることを考え始めました。楽器を志した人間で

生懸命です。演奏技術はもちろんですが、それ以上に「心」を大切にしています。部員達の活動力や心を大切にしたい。チームワークは日本一。どこにも負けない。すごい中学生だと思っています。

練習は授業が終わった午後4時から6時まで。冬は5時までです。学校の立地環境などの状況から、朝練習はしていません。しかし、わずか1分でも10分以上の価値ある練習に高めようと

すから、もちろん演奏家になりたいと思っていました。ゆくゆくはベルリンフィルから「ゼヒメンバー」になってください」なんて、野球のドラフト会議のようなお声がかかって……、などということが現実にあるわけはありません(笑)。では自分がどうすれば人の役に立ち、生きがいを見つげることができるのか。そう考えた時に、「教師」はとても魅力ある仕事だと思えました。大学4年生の夏に教員採用試験を受けて合格。今では教員生活36年。6年間の教育委員会での勤務もありますが、教員一筋です。

大音の良いところは、卒業後も「大音卒業」という深い絆で結ばれていること。若い頃は卒業生というだけでかわいがってもらえたり、仲間意識とともに人間関係がスムーズになったり。そういうことは多々ありました。大音の卒業生で本当に良かった！ そう感じる場面は本当に多いです。今では逆に「君、大音か」と親しみと強い絆を感じて後輩達を見ている自分自身があります。

私の中学校教員としての時間はあとほんのわずか。その後は機会があれば、より発展的に吹奏楽を指導したり、音楽を教えていきたい。きっと私のことですから、一生続けていくのではないのでしょうか。



▲限られた時間の中でいかに集中するか、を課題としている



▲昨年の兵庫県吹奏楽コンクールにて生徒、卒業生と一緒に



▲「オーボエ一筋」で練習に明け暮れていた大音時代

吹奏楽指導者としての「渡辺秀之」

全日本吹奏楽コンクール全国大会には、初任の宝塚中学校で5年目に初出場。以来同校で12回、99年より中山五月台中学校で8回、宝塚市吹奏楽団(音楽監督)を合わせて26回の出場を果たしている。DVD「吹奏楽指導のソルフェージュ」「育みのタクト」をはじめ、宝塚中学校・中山五月台中学校・宝塚市吹奏楽団でそれぞれCDをリリース。



●わたなべ ひでゆき
1978年大阪音楽大学音楽学部卒業。オーボエを故鈴木清三氏に師事。宝塚市吹奏楽団音楽監督兼常任指揮者、兵庫県吹奏楽連盟理事、西阪神吹奏楽連盟理事長、日本バンドクリニック委員会元委員。



マリリンバが 「多くの出会い」をくれました

松村組のコンサートは 体力勝負！

私の所属する「和太鼓 松村組」(以下、松村組)は、メンバー7人でコンサート運営からツアーのスケジュールリング、移動の際の運転や楽器運搬、設営まですべてこなします。コンサートや芸術鑑賞会での演奏、イベントなどに出演する中で、昨年の北海道ツアーでは2週間という長期間、さまざまな街でコンサートやワークショップを行いました。会場に到着したら楽器を下ろして組み立て、設置をしてリハール。約2時間半の本番を終えると、休む間もなく楽器をトラックに積み込み、そのまま200kmを移動する毎日でした。本当に体力勝負

ですが、長い時間をともに過ごすメンバーとは、ツアーのたびに本物の家族のように信頼感が増していきます。

初めて大音に来て 「絶対ここに入りたい！」

4歳からマリリンバを習い始めました。練習はあまり好きではなかったのですが、楽譜を読むのが楽しくて、マリリンバを演奏することが大好きでした。進路を考え始めた中学生の時、自分は何がしたいのだろうかと悩みました。その時初めて「私は音楽をした」という気持ちで芽生えてきたのです。そして、師匠の宮本慶子先生(元本学講師)が講師をしておられた音楽科のある高校に進学することを決め

ました。しかし、高校へ入学してからも自分の中にまだ具体的な将来像はなく、教育大学に進学して音楽講師になることが一番良いのかなと考えていました。

初めて大音に足を踏み入れたのは、受験当日。教育大学とは別に私立の音楽大学も受験しておこう、というくらいの気持ちで受験に来たのですが、その施設の素晴らしさにびっくり！音楽大学は何もかもが専門的で、「音楽をするならこしかない！」と自分でも不思議なのですが、その場で決意を固めていたのです。

直前になっての決断でしたが無事大音へ入学でき、そこからの充実ぶ

西垣 良美

マリリンバ奏者



生や先輩から誘っていただいた演奏や指導のお仕事を続けていました。卒業した年の5月、宮本先生から「松村組がマリリンバを演奏できる人を探しているけど、あなた行ってみたい？」と声をかけていただいたのです。中学生の頃からコンサートを観に行き、大好きで憧れていた松村組。まさか自分が入る機会が訪れるとは思っていませんでした。嬉しくて「入りたかったです！」と即答しました。それから松村組での厳しい練習が始まりました。クラシックにはなかった即興演奏、また演奏面だけでなく舞台での立ち振る舞いなど、初めて学ぶことがたくさんありました。半年間稽古を重ね、その年の11月が私の初舞台。あの時の緊張は、今でも思い出しただけで足が震えそうです。

ます。そこには必ずたくさんのお出会いがあります。終演後に「コンサートに来て本当によかった」「また来てね」「ありがとう」などと声をかけていただくと、本当に嬉しいのです。コンサート当日まで厳しい練習があっても、舞台上に立ち拍手をいただいた瞬間、「マリリンバを続けてよかった！」と思うのです。

「たくさんの人に会えること」——松村組に入り、北海道、岩手、宮城、福島、東京、愛知、大阪、神戸などいろいろな場所で演奏させていただいて

あの時大音への入学を決意していませんでした。編入してなかったら……間違いなく今の自分はなかったと思います。現在、演奏活動を中心とした素晴らしいお仕事をさせていただいているのも、大音での先生との出会いや充実した施設での学び、そしてたくさんの仲間とともに演奏できたこと、すべてが今生かされているなと感じています。将来に迷っていたとしても、学生時代にできること一つ一つとしっかり向き合い、精一杯学生生活を楽しむ。そうすれば、必ず将来にながっていくんだと実感しています。

りは今思い返してもすごいものでした。急な決断だったため、短大を受験し、もちろん2年間で卒業するつもりでした。短大ではオーケストラや吹奏楽も経験し、とても充実した日々を過ごすが、もつと学びたいという気持ちが大きくなっていききました。そんな時、ご指導くださった先生方のアドバイスもあり、2年生の夏になって学3編入を決意したのです。

編入してからは室内楽を受講し、アンサンブルの楽しさや奥深さを経験しました。編入していなければ、たぶん現在のような演奏活動はできていなかったのではないかと思うほど、このアンサンブルの授業は自分にとって大きな収穫でした。これだけ多くのマリリンバや打楽器のある施設は、生まれてから一度も見ることがありません。本当に感激してしまいました。一年に一度の打楽器オーケストラ演奏会への出演、先生方のきめ細かい指導。どれをとっても、ほかでは絶対に味わえないと思います。改めて大音で学ぶことができ

大音じゃなかったら 今の自分はなかった

実は、大学を卒業した時点でもはつきりとした進路は決まっておらず、先



▲松村組では「音」だけでなく見せるための「パフォーマンス」も大切

▲今でも年に数回はクラシックの演奏会に出演する。尊敬する宮本慶子先生との共演

「和太鼓 松村組」

阪神淡路大震災をきっかけに神戸で発足。和太鼓に加えマリリンバ、オカリナ、南米アンデスの民族楽器などとの融合を図り独自のサウンドを追求。国内外でコンサートを展開し、各地で高い評価を受けている。



●にしがき よしみ
2009年大阪音楽大学音楽学部器楽学科打楽器専攻卒業。マリリンバを宮本慶子、田中鈴代の各氏に師事。現在、マリリンバ合奏団アンサンブルローザ、和太鼓松村組メンバーとして全国各地で演奏活動を行う。





まずはP号館で予約

今日は副科ピアノのレッスンがあるので、まずはピアノの練習。P号館を予約します。



レッスン前のピアノ練習

指鳴らしにハノンから。ピアノは正直苦手意識があるのですが、教師になるためには絶対必要だし、もっと頑張らないと!



フルートの個人練習

今日は午後から有志で組んでいるフルートアンサンブルの合わせがあるので、今から授業前の午後1:30まで個人練習。



横田知子先生のレッスン

とても優しく美人! 憧れの横田先生のレッスンです。いつも丁寧に教えてくださいます。でも練習不足で……。



アンサンブルは楽しい!

普段は個人練習の時間が長いですが、誰かと合わせるアンサンブルの練習はとても刺激になり、ソコとはまた違った楽しさです。午後6時に終了。



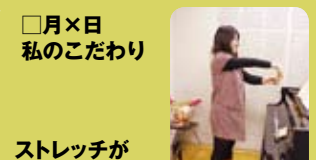
おつかれさまでした!

レッスン、練習、アンサンブルと充実した1日でした。個人練習の時間をもっとりたい! 明日もまた頑張ろう。



試験前のレッスンもリラックスして

中務晴之先生のフルートレッスン。優しくとてもおもしろい先生で、レッスン時間が本当に楽しい! いつも笑いが絶えません。



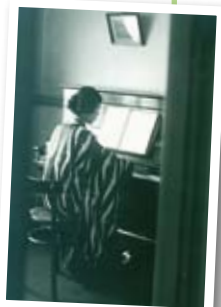
ストレッチが欠かせません

1年生の時に腱鞘炎を患った経験から、演奏する前には必ず体をほぐすよう心がけています。体操をしたり、10回くらい軽くジャンプをすると随分体が楽になるんです。

私のリアル

教師を目指して人生経験を重ねたい

気分転換は「歩くこと」。知らない道を通って、見たことのない風景に出会るのが大好きです。心斎橋から淀屋橋まで、堀江から梅田までなど平気で3時間くらいは歩いてしまいます。将来は、教師になって吹奏楽部の顧問になりたい。でもまだまだ人生経験が少ないし、「先生」の器ではないと自覚しています。だから卒業後もしばらく勉強を続けたい。尊敬する姉が海外で働いていたので、その影響で私も海外で勉強できたらいいなという夢を描いています。



大音生リアル ④

大音生のライフスタイルなどありのままをご紹介します。

練習時間 (管楽器) 編 Part 2

Vol.222で大好評だった「大音生リアル」練習時間編。今号では管楽器編をお送りします。長い時間集中して練習することが必須な大音生たちのリアルな姿をお届けします。今回はいつものまにかフルート一筋の人生」という印藤さんの練習風景を追いかけてみました。

ナビゲーター
大4・フルート
ゆかり
印藤 緑さん



中

入学時は剣道部に入るつもりでしたが、友人に誘われて見学に行った吹奏楽部に心を動かされてしまいました。それがきっかけで音楽にのめり込み、今に至っています。負けず嫌いな性格が私の原動力。長い時で一日3時間は練習します。集中力が続く時は時間を忘れてしまい、何時間吹いていたのかわからなくなるほど。逆に集中できないと思う日はさっと気持ちを切り替えてピアノの練習をするなどの工夫をしています。

Column

時代が変わっても練習変わらず!?

2015年に創立100周年を迎える大阪音楽大学。創立当時の大音生たちはどのように練習していたのでしょうか。例えば、約90年前の大正末期の練習室は学生用、教授用合わせてピアノが計12台、オルガンが計15台(ちなみに現在ピアノは約500台を所有)。練習は一人一時間で各室の仕切り壁が厚く、快適だったようです。写真は1930年頃のピアノ練習室の様子(味原町校舎内)。女学生がアップライトピアノで練習しています。着物が時代を感じさせますね。着物の袂が引っかかったりして弾きにくくはなかったのでしょうか。

注目の演奏会や公演の様子を紹介します。

2013年2月23日(土) ザ・カレッジ・オペラハウス 大阪音楽大学短期大学部 第18回 吹奏楽演奏会

第一部は伊勢敏之講師、第二部は小野川昭博講師、第三部は丸谷明夫特任教授の指揮により2013年度吹奏楽コンクール課題曲やP.A. グレインジャー作曲「リンカンチャーの花束」全曲を演奏しました。



2013年3月2日(土) ザ・シンフォニーホール 大阪音楽大学 第44回 吹奏楽演奏会

第一部は丸谷明夫特任教授指揮でR. ジェイガー作曲「シンフォニア・ノビリッシマ」、大栗裕作曲「大阪俗謡による幻想曲」など、第二・第三部は北野徹教授指揮による2013年度吹奏楽コンクール課題曲やD. プルジョワ作曲「コッツウォルド・シンフォニー (交響曲第6番) 作品109b」を披露。満席の会場から惜しめない拍手をいただきました。



2013年3月7日(木) ザ・カレッジ・オペラハウス 第10回 ザ・ストリング・コンサート

上塚憲一准教授指揮による、弦楽器のみの合奏で行われるコンサート。A. ヴィヴァルディ作曲「協奏曲イ長調『ペル・エコー・イン・ロンターノ』 RV552」では、「こだま(エコー)」を表現するメンバーを客席に配置、演奏するという演出がありました。



資格変更教員

竹田 和子 教授 (外国語)

西村 理 准教授 (音楽学)

石橋 栄実 准教授 (声乐)

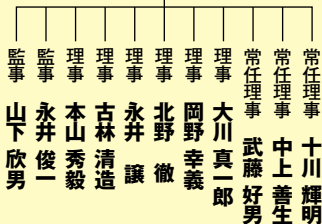
法人役員一覧



理事長
中村 孝義



副理事長
本田 耕一



石井 彰 特任教授
(ジャズ)

活躍する卒業生を 多数排出してきた20年

母校のジャズ・コースを受け持ち始めてはや20年以上経ちました。各界で活躍する人も多数おり、大変嬉しく思います。失われつつある生身の人間同士のコミュニケーション。ジャズはまさにこのことを実践することにほかならないのです。

大阪音楽大学作曲専攻卒。在学中、ビル・エバンスを聴き衝撃を受け、ピアニストを志す。卒業後、関西で活動を始め国内外ミュージシャンとの数々のセッションを経て、91年拠点を東京へ移す。日本全国でライブ活動を行っている。



森下 幸路 特任教授
(ヴァイオリン)

自分自身を鍛錬し 学生たちを教え導く存在に

学生の皆さんの手助けができるよう、自分自身もさらに鍛錬してゆきたいです。よろしくお願いします。

桐朋学園大卒。シンシナティ大学にてドロシー・レイ氏に学ぶ。安田謙一郎カルテットを経て小林道夫氏とL.V. ベートーヴェン「ヴァイオリンソナタ全曲シリーズ」や福田進一氏との全国ツアー、仙台フィルコンサートマスターなど多数の活動を行う。現大阪交響楽団首席ソロコンサートマスター。

新任
教員紹介
今年度より特任教授・准教授になられた教員よりメッセージをいただきました。



熊谷 美紀 准教授
(ソルフェージュ)

学生とのつながりを もっと大切にしていきたい

勉強の成果がすぐに表れにくく、日頃の積み重ねが必要な「ソルフェージュ」。繰り返し正しい音程で歌う、楽器で弾いてみるなど楽譜を正確に再現することは必要ですが、耳の訓練だけでなく理論も頭の片隅に入れておくことが大切です。「ソルフェージュ教育法」の授業では、卒業後に指導者となりたい方に役立つよう、ソルフェージュの指導法を皆さんと一緒に考えていきます。

これからは授業時間以外でももっと学生とのつながりを密にしていけたら、と心新たにしています。

京都市立芸術大学大学院音楽研究科作曲専攻修士課程修了。室内楽を中心に、子どものためのミュージカル作品などを作曲。また、ソルフェージュのテキスト「ハ音記号スタディ」「リズムトレーニング」(共著)を出版。

お知らせ



福島県の中学校合唱部を招待 ハーモニージャーパン2013

▼本番に向けて気合いを入れる小高中合唱部の皆さんと本山副学



本山秀毅副学長(教授、合唱)が東日本大震災により大きな被害を受け、現在も避難生活を余儀なくされている福島県の小高中学校合唱部を、3月に長岡京記念文化会館で行われた「ハーモニージャーパン2013」に招待しました。これは、震災後2回目となった福島県の合唱コンクールに参加した南相馬市の小高中学校の演奏を聴き、本山副学長が感銘を受けたことがきっかけとなりました。

「計画的避難区域に指定されている校舎は使えず、仮校舎で授業を受けています。肉親や友人を亡くした生徒も多いのですが、そんな小高中の合唱部が震災後も練習を重ね、活動を続けていくことに大きな感動を覚えました。実は福島県は合唱がとても盛んです。このたびはハーモニージャーパンのSNSサイトできつかけに縁ができて、招待させていただきました。アメリカ現代作曲家スティーブの「エレミヤの哀歌」やオリジナル曲「群青」など3曲を熱唱。客席よりたくさんの拍手をもらい、感激の様子でした。

大阪ゲヴァントハウス合唱団 被災地に思いを馳せ、 日本・ドイツで公演

昨年創立30周年を迎えた、波多野均講師音楽が常任指揮を務める大阪ゲヴァントハウス合唱団。東日本大震災後、2年が過ぎた今も震災の傷跡が残され、たまに被災地にも思いを馳せたいため、これまで交流があったカメラータ・ヴォカール・ベルリン(ドイツの合唱団)と合同でのコンサートを企画。昨年10月には兵庫県立芸術文化センター大ホールで、今年3月にはドイツのコンツェルトハウス・ベルリン大ホールにおいて追悼演奏会が実現しました。

お互いを思いやりながらも、音楽に関しては厳しい注文を出し合う両合唱団の交流が、今回実を結びました。なお、日本公演には田中勉教授(ピアノ)と波多野講師(テノール)がソリストとして、ドイツ公演には卒業生でソプラノの大谷志穂さん、ドイツ語の阪井葉子講師も参加しました。

▲今年3月に行われたドイツ公演



夏も秋も！大音生
体験してみませんか？

オーブンキャンパス 開催



▼入学前に大音生体験ができるチャンス！

夏から秋にかけてオーブンキャンパスを行います。7月7日(日)はジャズ、ポピュラー、電子オルガン、ミュージカル、ダンスパフォーマンスを志望の方必見の内容。在学生によるミニライブや飛び入りOKのジャズ・アンサンブル体験もできます。7月14日(土)には大音クラシックの魅力が満載！体験レッスンはもちろん、教員によるコンサートも予定。初秋の9月23日(月・祝)には全専攻・コースを対象に実際の授業を公開。間近で見学していただけるほか、大音が誇るホールや教室などの施設もじっくりと見ていただけます。今年も大音のオーブンキャンパスから目が離せません！



K号館スタジオで
レコーディング

桜塚高等学校の オリジナルソング



▲メンバーで意見を出し合いながらのレコーディング

4月より豊中市の広報番組「かたらいプラザ」のオープニングで流れている「アンカー」僕らの町(豊中)。これは、大阪府立桜塚高校軽音楽部が制作を担当。2月の初旬、本校のK号館スタジオにて3日間にわたってレコーディングが行われました。歌詞には「千里」や「ロマンチック街道」など豊中の名所が盛り込まれ、元気で明るい曲調で番組を彩っています。「かたらいプラザ」はケーブルTVでオンエア中。インターネットでも視聴できます。



米で震災追悼イベント開催 脇山幹士講師が作曲・ピアノで参加

NPO団体「文化交流工房」代表の辻本勇夫氏の発案により、昨年6月、ニューヨークで始まった東日本大震災の追悼イベント「Voices from Japan - Perspectives on Disaster and Hope」(日本からの声―災害と希望への視点)。今年3月25日から4月6日までの期間、コロラド州のコロラド・カレッジにおいて、ジョーン・エリクソン教授(日本語、日本文学が専門で、震災時はサバティカルで京都に滞在)が中心となり開催されました。震災に関する絵画、写真や書の展示、フィルムの上映、レクチャーに加え、被災者による100首に及ぶ短歌が英訳によって紹介され、その短歌の中から9首を選び、ソプラノ、ハーブ、ピアノのために脇山幹士講師が作曲・ピアノ演奏した「Shrouded Blossoms」(けぶることに咲く花)を3月30日・31日の両日、同大学のバックロード・パフォーマンスホールにて初演(ソプラノ：ドナ・ハリス、ハーブ：キム・クラウディア・ピンタウディ)。短歌は、地震前日の平穏な日常生活、被災者救助の段階を経て、苦しみを乗り越えた中で新たな日々々々に対する安堵と復興への願いへ、という流れを形作っています。「Shrouded Blossoms」はひととき感動的であった「脇山作品」によるコンサートは、全イベントの頂点をなしていたなどの賛辞をいただきました。阪神淡路大震災経験者として参加できたことは光栄です。

▲ピアノ演奏も担当した脇山幹士講師



障害の有無に関係なく楽しめる スプリングコンサート開催

3月22日「障害の有無に関係なく、人として同じ空間を楽しみ、時間を共有する喜びをわかち合う」ことを目的に、社会福祉法人ゆうのゆう主催の「スプリングコンサート」が大阪国際交流センター大ホールにて行われました。客席の前方は車イスのままでも入場できるようにフロアが設けられ、誰もが自由なスタイルで演奏を聴きました。上塚憲一准教授(チェロ)指揮のもと、大阪音楽大学管弦楽団によるクラシックの名曲や会場のお客さまとともに歌う「翼をください」が演奏され、会場にいる誰もが心ゆくまで音楽を楽しむことのできるコンサートになりました。



▲楽しい演出で楽器紹介も



▲客席のお客さまも手拍子で参加



大音生が演奏してレコーディング 大阪借星学園高等学校の校歌



▲右から大阪借星学園高校の太田明弘理事長、中村泰士さん、野徹教授

4月1日、此花学院高等学校は「大阪借星学園高等学校」と名称を変更し、新たに歴史をスタート。新校歌をザ・カレッジ・オペラハウスにて本学音楽および管打楽器専攻生がレコーディングをしました。同校の太田明弘理事長が「絶対作曲をお願いしたかった」という中村泰士さんが曲を書き下ろす。高昌師准教授が編曲、太田理事長自らが作詞を担当。「青春の昂」と名づけられたこの校歌には「人は皆、星である。生徒には輝く星になつてほしい」という思いが込められ、明るく爽利とした曲調。レコーディングはスムーズに終了しました。この校歌は大阪借星学園高等学校のHP上で聴くことができます。トップページより「学校紹介」↓「概要」をぜひチェックしてみてください。

▲ザ・カレッジ・オペラハウスでの録音風景

▶アレキサンダー・ロスラー先生と生徒のみんなで(右から2番目が私)

Daion Report ~海外見聞録~

学生が見た！聞いた！海外体験をお送りします。

佐々 可那子さん(大4・ピアノ)

芸術あふれるウィーンで出会った音楽と風景

2012年8月、ウィーン・ムジークセミナーへ参加するために、オーストリアのウィーンへ留学しました。このセミナーには韓国やロシアなどさまざまな国から参加者が集まっています。レッスンでは、今まで日本で体験してきたものとはひと味違う、その土地ならではの音楽を学ぶことができました。滞在期間中にたくさんの友達が出来たのは大きな収穫でした。みんなでオペラを観に行ったり、お休みの日にはなんと国境を越えてハンガリーにまで足を伸ばしたことも。セミナー最終日はコンクール受賞者のコンサートと立食パーティで盛り上がり、そのあと先生や生徒の皆さんとお酒を飲みに行けたのはとても楽しい思い出です。



▲ベルヴェデーレ宮殿

ウィーンの街はとにかく美しく、散歩が日課になりました。泊まっていたホテルから歩いて10分のところにあるベルヴェデーレ宮殿や、先生に教えていただいた大学近くの大きな公園には、気分転換に友人と一緒に、また1人でもよく歩きに行きました。前方は車イスのままでも入場できるようにフロアが設けられ、誰もが自由なスタイルで演奏を聴きました。上塚憲一准教授(チェロ)指揮のもと、大阪音楽大学管弦楽団によるクラシックの名曲や会場のお客さまとともに歌う「翼をください」が演奏され、会場にいる誰もが心ゆくまで音楽を楽しむことのできるコンサートになりました。

研究室訪問

普段はなかなか入ることのできない先生の研究室におじゃまします！

今回お訪ねしたのは……

松田 昌恵教授
(担当科目：音楽、音楽研究、歌曲研究(日本)、オペラ研究)
A号館408号室

「目の前にオペラハウス」 景観抜群のレッスン室

A号館の4階にあるこのレッスン室は5年ほど前から使わせていただいています。冬は特によく日が差し込んでとても暖かく、エアコンがいらぬほど。北海道生まれのくせに寒がりの私にはもってこいのお部屋です。窓を開けると目の前にはザ・カレッジ・オペラハウス、そして梅田まで見渡せる景観の良さ！この抜群の環境で日々レッスンをしている学生たちには「オペラハウスの音が届くように歌いなさいね」なんて言っています(笑)。

学生時代はとにかく歌うことが大好きで楽しくて仕方ありませんでした。実は今もその気持ちがずっと続いています。レッスンを受けて来る学生にも「歌っていてよかった」「音楽をやっていたよかった」という気持ちをずっと持っていてほしいと願っています。もちろん楽しい時ばかりではなく、時には厳しいことも言わなければならない場面もありますが、私自身も先生から受け継いできた「歌の楽しさ」を今度は学生に伝えていかなければ、と心に留めてレッスンや授業をしています。自分が夢中になれること、これだけ時間を贅沢に使えるのは学生時代だからこそ。好きなことを見つけてそれに邁進すること、そして一生懸命に努力できることはステキなことだと思います。

プライベートでは、歌舞伎を見に行くのが大好きです。忙しい日々ですが、少しでも時間ができるとたびたび出かけています。ちょっとミーハーですが、幼い頃から見てきた役者さんの名義披露公演を見ると感慨深いものがありますね。普段は家にいるのが好きな私ですが、歌舞伎のためには足を伸ばして年に何度も京都や東京へも出かけていくほど腰が軽くなるようです。



▲窓を開けるとそこは……ザ・カレッジ・オペラハウス！



今回のテーマ フランス・バロック

文 中村 孝義(音楽学・理事長)

ヴェルサイユ宮殿で花開いた雅な世界

前回のイタリア・バロックに続いて、今回はフランスのバロック音楽を眺めておくことにしましょう。皆さんは、パリ近郊にあるヴェルサイユ宮殿をご存じですか。その壮麗さはヨーロッパの中でも群を抜いており、諸国の宮殿はすべからくこれを範としたといっても良いくらいです。この宮殿の主として有名なのが太陽王と呼ばれたルイ14世(1638～1715)。この人は、ヨーロッパでも最強の権力を手にした王であるとともに、バレエに心酔し、自らも一級の踊り手でした。このあたりの様子は、映画《王は踊る》で興味深く見ることができます。このような王がいれば、バレエが盛んになるのは当然で、16世紀末から17世紀にかけてバレエと音楽が一体となった「宮廷バレエ」が盛んとなりました。

17世紀後半になると、イタリアから移入されたオペラに関心が移りますが、こ

こでも彼らのお好みであったバレエが必ず挿入され、この伝統はフランス・オペラの大きな特色となりました。このオペラの分野で王の信任を得たのがイタリア生まれのリュリ(1632～87)で、典雅極まりない多くのオペラを生み出しました。また彼を継ぐ存在としてラモー(1683～1764)も忘れてはなりません。リュリのオペラ《アティス》やラモーのオペラ《イポリトとアリシ》などは、この頃のフランスの典雅な世界を目の当たりにさせてくれます。

ヴェルサイユ宮殿では、オペラやバレエ以外に、サロンで楽しむ室内楽においても独自の世界が展開されました。クーブラン(1668～1733)が作曲した《コンセル》の繊細で優美な世界は、ほかに類例のない音楽です。その雅な趣には思わずため息が漏れるほどです。合奏で核となるクラヴサン(チェンバロのフランス名)の独奏のためにも、クーブランやラモーが詩的なタイトルを持った多くの作品を生み出

今回の推薦曲

- リュリ:オペラ「アティス」クリスティ指揮 [◎:CDC47-Ⅲ]
- クーブラン:「王宮のコンセル」 [◎:CD38-20]
- ラモー:「ハーブシコードセレクション」(『鳥のさえずり』収録)[◎CD7-6]

※ ◎は図書館請求番号を表しています

しました。例えば、クーブランがさまざまな人物の肖像を描いた作品や、ラモーの《鳥のさえずり》などは、皆さんもどこかで耳にされたことがおありでしょう。絶対専制君主の典型とも言うべきルイ14世が作り上げたフランス宮廷文化や音楽は、彼の政治力の大きさからヨーロッパ全域に大きな影響を与えたことは言うまでもありません。わが国では、イタリアやドイツのバロック音楽に比べるとなぜか縁が薄いのですが、ぜひじっくりと味わってみてほしいものです。

3月31日(日)に豊中市立アカア文化ホールにて「オーケストラの日2013」が行われ、本学のザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団(指揮:牧村邦彦)が出演しました。オーブニングは、W・A・モーツァルトの歌劇「コジファン・トゥット」序曲。前半はコンサート・ミストレスの赤松由夏さんよりお話と演奏を交えての楽器紹介。後半には並河寿美准教授と卒業生の小林峻さんがオペラの名曲を披露。また、客席から希望者を募っての指揮者体験コーナーや豊中市内の第十四、十五、十六中学校吹奏楽部が



▲豊中市内の中学生と共演!



▲「オペラ名曲シリーズ」でアリアを披露した並河寿美准教授と小林峻さん

「オーケストラの日」
ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団が活躍

オーケストラと共演するなど楽しい企画が盛りだくさん! 会場からはたくさん
の温かい拍手をいただきました。



▲さまざまな種類のクラリネットを紹介

市民に親しまれる市役所づくりの一環として年4回、お昼休みにロビーにてコンサートを開催している豊中市役所。3月29日には本学クラリネットと声楽専攻生による演奏を本田耕一教授(クラリネット)指揮のもと行いました。「ムーンライト・セレナーデ」など親しみあるナンバーのほか、宮城

県石巻市出身の和泉耕二副学長が作曲した「石巻・わがふる里」を演奏。震災による大きな被害を受けた故郷復興への願いを込めて市民の皆さまへお届けしました。
なお「石巻・わがふる里」のCDは大学HPで販売を始めた税・送料込1000円。売上はすべて石巻への復興支援活動資金とします。皆さまのご協力をどうぞよろしく願っています。詳しくは大学HPをご覧ください。



▲「石巻・わがふる里」(税・送料込1000円)



音楽あふれるまち豊中
市民ロビーゆづゆコンサート



▲市役所ロビーはお客さまいっぱい!

祝! コンクール受賞

各種コンクールで受賞された皆さんの喜びの声をご紹介

第23回堺ピアノコンクール F部門 銅賞

2012年9月1日(榊文化会館)

自分の好きな曲で挑んだ今回のコンクール。楽しく弾くことができ、それが評価につながり、とても嬉しかったです。今後もまだまだ頑張りたいと思います。



桑沢 美南
(院2・ピアノ)

第10回かがりの里音楽コンクール 第1位、聴衆賞

2012年11月18日(楠徳寺かがりホール)

専攻科の修了試験曲「後宮からの誘拐〜あらゆる苦しみか〜」をコンクールという舞台で再び歌えたこと、その上素晴らしい賞を頂いたことを大変感謝しております。「心に響く歌」を目指して精進してまいります。



長町 香里
(11年専修・声楽)

第2回アマービレ電子オルガンコンテスト 自由曲部門 一般の部 金賞

2012年11月24日(LICはびきの)

電子オルガンの各メーカーの枠を超えた、今までにないコンクールでした。その中で素敵な賞を受賞できたことを嬉しく思います。電子楽器だからこそ奏でることのできる音楽を、演奏を通してこれからもたくさんの方へ届けます。



高崎 大輔
(09年短専修・電子オルガン)

第22回日本クラシック音楽コンクール サクソフォーン 一般・男子の部 第2位

2012年12月3日(メイシアター中ホール)

卒業してから3年が経ち、うまくいかないことも多々ありましたが、こうして結果を残せて嬉しく思います。今後も自衛隊音楽隊の一員として良い演奏家になれるよう精進してまいります。



茶円 清正
(10年大卒・サクソフォーン)

第1回大阪音楽コンクール本選 管楽器部門 第2位

2012年12月8日(クレオ大阪東ホール)

第18回KOBÉ国際音楽コンクール 管楽器部門木管の部 最優秀賞、神戸市長賞

2013年1月12日(神戸文化ホール)

卒業してからたくさんのコンクールにチャレンジしました。その中で私にとって今年度残り二つのコンクールとなり、「悔いのないように」の一心で練習に励みました。この結果に満足することなく、これからも夢に向かい日々努力してまいります。



岩橋 祐佳
(12年大卒・サクソフォーン)

第6回ベーテンピアノコンクール全国大会 バロック部門 大学・一般の部 第1位

2012年12月9日(東邦音楽大学三室学園創立50周年記念ホール)

卒業後、目標を持つためにコンクールへの挑戦を続けてきました。さまざまな曲を勉強する中で、改めてピアノの奥深さを感じています。これからも仕事と両立しながら、一步一步前進していきたいです。



山中 美乃
(06年大卒・ピアノ)

▶龍笛奏者として活躍中の芳村さん。08年には「ロハスクラシックコンサート2008」にて坂本龍一氏と共演



第22回日本クラシック音楽コンクール全国大会

打楽器部門 大学・女子の部 第3位

2012年12月12日(かつしがシフォニー・ヒルズ アイリスホール)

演奏技術、表現ともに自分にとって大きな挑戦の曲でした。練習を重ねていくうちに、とても思い出のある一曲となり、またこのように評価していただけたことを大変嬉しく思います。これからも日々精進してまいります。



森本 夕貴
(大4・打楽器)

クオリア音楽フェスティバル 第3回オーディション

弦楽器部門 大学生の部 第1位

2012年12月24日(クリエイトセンター茨木市民総合センター)

数年ぶりのコンクールで一位をいただき大変嬉しく思います。思い描いた世界を音で表現でき、それを評価していただけたことが何よりの自信となりました。この経験を糧にして、今後も挑戦することに臆せず、精進してまいります。



高崎 真央
(院1・ヴァイオリン)

第6回ベーテンピアノコンクール全国大会

自由曲部門 大学・院生Aの部 第1位

2012年12月27日(ティアラこうとう大ホール)

前日から東京に泊まり、ピアノに触らずに本番を迎えましたが、ホールとの相性が良く、最初から最後まで程よい緊張と集中を保って楽しめました。これからは、自分と音楽に向き合い続けたいです。



伏見 千紗都
(13年大卒・ピアノ)

Topics 活躍する卒業生

▶チェンマイ

パヤップ大学にて

ピアノデュオで海外でも活躍

Duo-Scherzoの中尾恵さん、松尾美保さん

(ともに90年大卒・ピアノ)

クラシックを中心に幅広い音楽を連弾で奏でる「Duo-Scherzo(デュオスケルツォ)」。高校時代よりデュオを組み、来年は結成30周年。大学時代より中川博子先生にご指導いただき、卒業後お互いに結婚・出産・子育てを経て09年大阪国際(1位)・アジア国際(1位)・横浜国際(2位)等のコンクールに挑戦。

「私たちが驚きの1位を獲得し、その後中国・南京で演奏、タイでの『デュオリサイタル』と活動の場が拡がりました。お互いを思いやる気持ち、応援してくれる方々への感謝を忘れず、音楽を楽しみ、それを一人でも多くの方に伝えることが大切だと考えています」

●今後の予定

7月15日(月・祝)ピアノデュオコンサート

～VIVA! フランス人作曲家とピアソラ～(和泉市久保記念美術館)

7月28日(日)ピアノフェスタ ゲスト出演(桜井市民会館)

8月4日(日)こころの芽コンサート(兵庫県立芸術文化センター小ホール)

お問い合わせ:公式サイト<http://duoscherzo.info/> CONTACTのページより



▲ホアヒンの演奏会場にて

NHKテレビで挿入曲を担当

卒業生の芳村直也さん(05年短卒・ジャズ)

ジャズコースを卒業後、龍笛奏者として活躍中の芳村直也さん。4月より放映が始まったテレビ番組「先人たちの底力 知恵泉(ちえいず)」(NHK)で龍笛を演奏した曲が挿入曲として使われています。芳村さんは、学内では演奏者を支援する側としてお仕事もされています。そんな芳村さんより、演奏家を目指す在学生へメッセージをいただきました。「本学で勉強している学生の皆さんの多くは、将来音楽を仕事にしたいと考えていると思います。演奏を仕事にする上で作曲家の方とのつながりはとても大切です。また、プロの世界のレコーディングでは初見で演奏できる力はもちろん、自分のアイデアを盛り込んでアレンジする能力も求められます。型にはまらず、さまざまな工夫ができるミュージシャンを目指してください」

NEWリリース

大音関係者がリリースしたCD・本・楽譜などをご紹介



マリンバアンサンブル「びーだま」
山本敦子(01年大専卒)、Aki(00年大卒)
【ゆりかご】
2,500円(税込)
全国のCD店、Amazon 他



「びーだま」は2003年結成のユニット。マリンバの温もりある響きを大切に、コンサート、子どものための音楽会、福祉施設などで演奏してきました。ユニット名は、カラフルなマリネットが楽器の上を弾む様子から。クラシックの名曲と日本の唱歌をマリンバやグロッケンで収録、びーだまコンサートのきらきらとした温かい音世界が再現されています。

就職はしたい。でも「働くこと」に漠然とした不安を持っている、という方は多いかもしれません。実際に現場で就業体験ができる「インターンシップ制度」を利用してみませんか？

アルバイトとは違う「働く体験」

アルバイトなどで、学生時代から働く体験をしたことがある方も多いと思います。しかし、インターンシップとアルバイトとは根本的に違います。アルバイトは従業員の方から指示を受け、その指示を忠実に実行することが大切です。しかし、インターンシップは従業員の方と同じ視点に立ち、指示を受けたことだけをやるのではなく、自分で判断し自分で動かなければなりません。何が大切で、何が今必要なのか、状況判断が必要になります。場合によっては厳しい指導が入ることもあります。

何事も始めからすべて完璧にできるわけではありません。就業先の方もその点は充分理解していただき、受け入れてくださっています。大切なのは、インターンシップの体験によって自分の適性を知り、志望する業種や職種を見極めること。いざ、実際に就職してから「こんなはずではなかった」とすぐに辞めてしまうのは社会人として無責任な行動です。自分に合う仕事を見つけるために、ぜひ積極的にインターンシップ制度を利用してみてください。

なお、本学では夏期・春期に分けて実施しており、夏期の申し込みは6/20(木)までとなっています。詳しくは「キャリアハンドブック」(6ページ)をご覧ください。



◀いずみホールの受付にて準備中

▶びわ湖ホールの事務所にて楽譜の整理



インターンシップについてはキャリア支援センター (A号館1階)にお越しください



キャリア支援センター 磯口 友希

CAMPUS Information

学内の各部門・施設から、学生生活に役立つ情報をお届けします。

学生支援センター

学生相談室を開設、立ち話感覚でお越しください。

悩みや不安を話してみませんか？

「単位のとり方がわからない」「授業に集中できない」「授業についていけない」など学業に関することから「経済的なことで悩んでいる」「将来の進路が漠然と不安」など学生生活に関する事、また「眠れない」「食欲がない」「人間関係がうまくいかない」という健康に関する事から心の悩みまで、どんなことでも気軽に相談できる「学生相談室」がオープン

しました。「ちょっと立ち話」的な感覚でおしゃべりに来るだけでもOK。心にたまった悩みや心配ごと、誰かに話すことによって心がスッキリするかもしれません。場所はA号館1階の応接C(学務事務部門向かい)。開室は月、火、木曜日の12時～18時。予約は不要です。専門のインターカー(相談担当者)が対応します。在学生ならどなたでも利用できます。



▲相談室内の様子

インターカー(相談担当者)



月曜日 齊藤 邦子



火曜日 池上 陽子



木曜日 土井 善深



学生生活 東田 優

予約は不要。お気軽に立ち寄りください

連携支援センター

オペラ物知り講座

第9期は「オペラをピットから支えるインストゥルメント」。素晴らしいオケのソコ奏者を招いてオペラアリアを堪能してください。
●第2回「森に響き渡るホルンが人間の欲望を表現します」

日時:7月16日(火) 18:30～20:30(18:00開場)
場所: ミレニアムホール
受講料:1回1000円
構成・お話し:中村 敬一
演奏:伏見 浩子(Hr)、和泉 万里子(Sop)、佐藤 明子(Pf)他



ミレニアムホール特別講座

～レクチャー・コンサート～
●第52回「楽器の原点、ホルン・アンサンブルの楽しさ」
ファンファーレに始まり、戦闘のほら貝、狩りの場では先頭に立つ。雪のアルプスを背景に、アルペンホルンが恋人に呼びかける。さてオーケストラでのホルンの役割は？

日時:9月14日(土) 14:00～16:00(13:30開場)
場所: ミレニアムホール
受講料:1回1000円
プロデューサー:日下部 吉彦
演奏:池田 重一(Hr)、小坂 智美(Hr)、坂東 裕香(Hr)、籾内 泉(Hr)、濱田 絵梨(Pf)



創立100周年記念プロジェクト
フローラン・エオー&パトリック・ジグマノフスキー ～フランス音楽の夕べ～

日時:6月26日(水) 18:00開演(17:30開場) 場所:ミレニアムホール
入場料:無料(全自由席・事前申込要)

お問い合わせ

大阪音楽大学 連携支援センター
TEL06-6334-2249 FAX:06-6335-2153 E-mail:renkei@daion.ac.jp

ほっと一息 学生サロン「ばうぜ」

「Daionプレート」ぜひ味わってみて！

4月より「ばうぜ」に新メニューとして登場した「Daionプレート」。このたび、後援会の援助により「Daionプレート」が新価格の350円*で味わっていただけることになりました！ 内容も、学生に人気のオムライスを中心に、バリエーション豊かにパワーアップ！ そのほかボックスランチ、洋食ランチ(各420円)とも日替わりです！ ますます進化する「ばうぜ」にご注目ください。

▶メニュー例「オムライスプレート」は大人気！



▶「シーフードピラフプレート」は具材たっぷり！

*在学生のみの価格です。また新価格での提供は月～金曜日のみとなります。

演奏会やおバラなど、大音関連の魅力的なイベントを紹介します。

演奏会 Information

6月 10月

●=出演者 ■=場所 ◎=入場料 ☎=問い合わせ先

OH=ザ・カレッジ・オペラハウス MH=ミレニアムホール

大阪音楽大学主催公演

第37回 ミレニアム・スチューデント・コンサート
6/17(水)、6/19(水)、6/20(木) 18:00 ~
■MH ◎無料(要整理券)

第3回 ミレニアムピアノコンサート(2台4手)
7/4(木) 17:00 ~
◎小杉 裕一・西本 由香、横田 知子・木村 綾子、
芹澤 文美・芹澤 佳司
■MH ◎無料

第4回 ミレニアムピアノコンサート
9/26(木) 17:00 ~
◎雷聲 三起子、小川 裕子 ■MH ◎無料

豊中こども音楽フェスティバル
9/29(日) 14:00 ~
◎OH ◎豊中市内の小・中・高校生 他
◎無料(要整理券)

第5回 ミレニアムピアノコンサート
10/10(木) 17:00 ~
◎木村 直美、末岡 智子、鳥居 知行 ■MH ◎無料

第50回オペラ公演 20世紀オペラ・シリーズ
「ピーター・グライムス」
10/12(土) 17:00 ~、10/14(月・祝) 14:00 ~
◎指揮:高関 健、演出:中村 敬一、ビクター・グライムス:小餅谷 哲男、エレン・オーフォード:平野 雅世、
バルストロッド船長:樹 貴志 他
◎OH ◎一般7000円、シルバー6000円、小・中・
高校生3000円

第38回 ミレニアム・スチューデント・コンサート
10/16(水)、10/17(木)、10/18(金) 18:00 ~
■MH ◎無料(要整理券)

大阪音楽大学音楽学部
~2012年度最優秀賞受賞者演奏会~
第10回 ザ・ローレル・コンサート
10/30(水) 18:00 ~
◎OH ◎1000円

問い合わせ先:大阪音楽大学コンサートセンター
TEL:06-6334-2242 <http://daion.ac.jp>

学生自主演奏会

作曲3年生 自主演奏会 6/28(金) 18:30 ~
◎岡田 早織、中川 育美
演奏:Rising★ Okar Wind Orchestra 他
■MH ◎無料 ☎080-1490-1909(岡田)

Message
3年生を中心としたメンバーで、吹奏楽曲と混声合唱曲を作りあげました。3ヵ月かかって作った曲のデータが消えるというハプニングを乗り越え、良い作品になったと思います。皆さまのご来場をお待ちしております。

夏の離宮 -音楽学のバロックな仲間たち-
7/5(金) 18:00 ~
◎京谷 政樹、杉山 恵梨、高橋 暁子、山本 萌美 他
■MH ◎無料(全席自由・要整理券)、お子さまもご
入場いただけます
☎090-6248-8631 eri.baroque@gmail.com(杉山)

Message
「西洋古楽」に携わり切磋琢磨している音楽学の学生を中心に、先生方にも特別にご協力いただき、演奏会を開催します。初夏の夕べに、さわやかなバロック音楽を楽しんでいただけたら嬉しいです。

演奏会形式ミュージカル「レ・ミゼラブル」
9/20(金) 17:00 ~、9/21(土) 15:00 ~
◎大音レミゼ制作委員会2013 ■OH ◎無料
☎anna19920428@gmail.com(吉野)

Message

今回の「レ・ミゼラブル」は、練習段階から先生方に熱心な指導をしていただき、それに答えるように学生の意識が向上し、お互いを刺激しています。プロと学生が共に熱い思いで織り成す舞台にぜひ足をお運びください!

大阪音楽大学後援演奏会

時、音楽 そのいのち 室内楽コンサート

6/23(日) 14:00 ~ ■フェリーチェホール(大阪)
6/24(月) 11:30 ~ ■宗次ホール(名古屋)
6/26(水) 19:00 ~ ■ロゼシアター(富士)
6/28(金) 19:00 ~ ■仙川劇場(東京)
◎田島 優子、白土 文雄、久保 美緒
◎2500円(当日3000円) ※6/24のみ1000円
☎6/23・24:090-4270-9829(ヴェーチェル企画)
6/26・28:080-3152-3752(クオーレ)

増井一友ギターコンサート 6/26(水) 19:00 ~
◎甲東ホール ◎1000円
☎050-3497-0294(夙川ギター倶楽部)

伊藤勝ピアノリサイタル 6/28(金) 18:30 ~
■ルネスホール ◎2000円 ☎0797-22-7957(伊藤)

井上麻子×藤井快哉 DUOコンサート
7/10(水) 19:00 ~ ■サンルイ・アミューズ
◎一般2000円、学生1500円(当日2500円/1500円)
☎06-6445-7775(サンルイ・アミューズ)

アンサンブルもーな演奏会 7/15(月・祝) 14:00 ~
◎林 誠、阪本朋子、福住 恭子 他
◎大阪フィルハーモニー会館 ◎2000円
☎090-8538-1727(福住)

「コチの会・東風」第5回公演
7/15(月・祝) 16:30 ~
◎作曲:熊谷 美紀、高橋 曜子、加藤 ユミコ、
池上 英樹 他
◎茨木市市民会館ドリームホール
◎一般2800円、学生・障害を持つ方2500円(当日
3000円/2500円) ☎072-634-0922(高橋)

**第6回 こころの芽コンサート~話と新しいメロディーの
出会い~ 8/4(日) 13:30 ~**
◎アンサンブル・フロット、孫 勇太、平松 昇平 他
◎兵庫県立芸術文化センター小ホール
◎大学生・一般2000円、中学生1000円、3歳~小学
生500円 ☎078-709-8197(オフィス・アッシュ)

デュオ・ウエダ ギターリサイタル 8/28(水) 19:00 ~
◎上田 英治、上田 辰彦 ◎ザ・フェニックスホール
◎一般3000円、学生2000円(当日3500円/2500円)
☎duoueda15@yahoo.co.jp(上田)

ヘンデル作曲オペラ「ロドリング」日本初演
9/15(日) 15:00 ~
◎老田 裕子、福島 紀子、清原 邦仁 他
◎伊丹アイフォニックホール
◎4500円、学生3500円(当日5000円/3500円)
☎0797-71-0832(井上)

**ベートーヴェンヴァイオリンの為に
ソナタ全曲クルス vol.2 9/21(土) 13:30 ~**
◎原 真奈美、嶺崎 あき子
◎いたみホール(中ホール) ◎2500円(当日3000円)
☎079-430-5000(みらいプロジェクト実行委員会)

お知らせ

8月の全館閉鎖日について

省エネルギー・地球温暖化防止のための取り組みとして、今年度は8月11日(日)、13日(火)~15日(木)、17日(土)、18日(日)を全館閉鎖とします。また8月30日(金)は職員研修・消防訓練のため、全館閉鎖とします。ご理解、ご協力をお願いいたします。

La La Vita vocal Concert Vol. X II

9/22(日) 15:00 ~
◎喜多 ゆり、花薫 孝子、小林 理恵 他
◎イシハラホール ◎3000円 ☎072-673-4063(福島)

幸楽会後援演奏会

第3回 和室 邦楽演奏会 6/22(土) 14:00 ~
◎岡田 多栄子、笠井 昌代、菊珠 三奈子、中平 美輝、
阪口 夕山 ■アルカスホール
◎2500円 ☎072-893-3938(笠井)

セシリアンシンガーズ第4回定期公演
星野富弘の詩を歌う
6/22(土) 14:00 ~ ◎びわ湖ホール
◎3000円 ☎077-582-4712(辻方)

WORLD MUSIC PROJECT ~世界中の学校に音楽を~
6/22(土) 14:00 ~
◎福住 恭子、山本 企佐子、柏山 恵菜 他
◎大阪中央電気倶楽部5 F 大ホール
◎一般2000円、高校生以下1000円
☎072-833-3650(橋本)

Allsgute Vol.1 6/22(土) 17:30 ~
◎北 奈賀子、紀之定 恵、姜 東秀、久田 幸代
◎浪花教会 ◎1500円 ☎allesgute.k@gmail.com

みやこオペラ京都 第1回定期公演 椿姫
6/23(日) 14:00 ~
◎指揮:金丸 克己、演出:瀧脇 達晴、ピアノ:西尾 麻貴
◎滋賀県立県民交流センターピアザ淡海ピアザホール
◎3000円 ☎075-748-9063(イースピリットミュー
ジック音楽事務所)

ジョイントコンサート「道」~今までそしてこれから~
6/23(日) 14:00 ~
◎笹木 右子、瀬口さゆり、佐野 真弓
◎アルカスホール ◎一般1500円、小学生以下500円
☎072-882-3822(瀬口)

2台ピアノはいかが? ~華麗なる音の宴宴~
6/30(日) 14:00 ~
◎飯野 有加里、池田 弥生、上田 舞 他
◎松方ホール ◎2000円
☎090-3949-2560(ジュジュの会)

備間 太久実&森澤 道子 ジョイントリサイタル
7/20(土) 14:00 ~
◎柏原リビエールホール小ホール ◎2000円
☎090-6737-3750(森澤)

たのしいジョイントリサイタル 7/27(土) 14:00 ~
◎竹内 直紀、嶋本 晃、本家 規代
◎兵庫県立芸術文化センター小ホール
◎2500円(当日3000円)
☎0798-74-5017(関西アーティスト音楽事務所)

ジェイズクレイス 8/17(土) 19:30 ~
◎キャトルフィユ ◎青青山 MANDARA
◎3600円 ☎qf_info@quatrefeuilles.jp

気ままに音楽のおもちゃ箱
クラシック&ポップスコンサート 8/18(日) 14:00 ~
◎道旗 彰子、道旗 維子、道旗 良枝、道旗 直樹
◎川西市みつなかホール1F文化サロン
◎1000円(当日1500円) ☎072-794-6621(オフィス・ナウ)

こどもの夢 9/15(日) 14:00 ~
◎黒田 恵美、岡本 佐紀子 ◎音楽ホール奏美
◎3500円 ☎077-524-2334(奏美チケット)

編集後記

次号は9月17日発行予定です

学生の1日追っかけ企画「大音生リアル」はいかがでしたか? 練習や勉強はもちろん、こだわりアイテムやファッションなど大音生のリアルな姿をこれからもお伝えしていけたらと考えています。「こんなこと知りたい!」や「今度は私が出演!」などアイデアも募集中。「Muse」は学生のアナタが主役です! (は)

学校法人 大阪音楽大学広報誌「Muse」 vol.226 2013年6月14日発行
●発行:学校法人 大阪音楽大学 〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8
TEL:06-6334-2131 FAX:06-6334-2141 <http://daion.ac.jp>
●制作・編集:広報室 muse@daion.ac.jp
●デザイン協力:(株)産業編集センター

人は忘れることで精神の健康を 保っています

人が生きていく上で欠かせない能力の一つが「忘れる」ことです。ただし、この能力はコントロールすることが難しい。人生、忘れたいことは山ほどあるのに嫌な思い出ほどいつまでも鮮明に覚えているもので、楽しいことはほとんど忘れてしまっているような気がします。もっとも本当に思い出すのもつらい経験は抑圧され、無意識の闇に閉じ込められているのかもしれませんが、人間はプラスよりマイナスの事態に過剰に反応します。これは多分、生存競争の過程で危機回避のために脳のメカニズムがそうセットされているからです。実際、生きている限り嫌なことは次々に生じます。だからこそ歴史に学べといわれるわけですが（平安遷都や応仁の乱から何を学べというのでしょうか?）、まさに歴史は繰り返す、人の過ちを見ても学ばないのが人間、自分で経験して初めてそれに気が付きます。楽しいことは似たり寄ったりですが嫌なことは常に新しい。でも、それを忘れるのも人間です。忘れたこと自体を忘れていただけかもしれませんが、忘れていないことに変わりはありません。

「近頃の若い者は……」というのは大人の常套句ですが、

これは自分が若かった頃のことを忘れているから言えること。「近頃の大人（年寄り）は……」と言い返せばいいのです。記憶研究の草分け、H・エビングハウス（1850～1909）によれば、24時間が経過すると何であれ記憶された内容の3分の2は忘れ去られるそうです。単純計算ですが、2日経てば11%（一昨日の夕食を覚えていますか）、5日後には0.4%しか記憶に残らない。何も覚えていないのと同じです。

昨日のことは過ぎたこと（3日も経てば忘れます）、明日は明日の風が吹く（コントロールできる未来なんてせいぜい食事のときに好きなものを最後に残すことぐらいです）。心理学者のC・ロジャーズ（1902～87）も、良い人生とは存在のプロセスであって状態ではない、と言っています。音楽を聴いているときのように、私たちは現在という瞬間にしか生きていません。たとえ何十年も生きるとしても、人生の実質は今日と過去の3日間と未来の1日か2日。挫折続きの人生を生きられるのも忘却のおかげ。たかだか1週間が人生だと思えば、生きているのもそう悪くないのでは、と思えるのではありませんか。



子どもの節目にも感じた 本番に触れてこそ得られる学び

教員
リレー
エッセイ
Vol.8

声楽・准教授 石橋 栄実

いしばし えみ ●大阪音楽大学音楽専攻科修了。
大阪府立夕陽丘高校音楽科講師（11年勤務）を経て本学教員に。98年「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテル役でドイツデビュー。咲くやこの花賞他受賞歴多数。10/30新国立劇場「高校生のためのおペラ鑑賞教室」関西公演「夕鶴」に主演予定。

今回はお話が楽しくて
実は密かにファン!
の
米山 信先生(ピアノ)に
お願いします



息子のことはさておき、後で担任の先生がおっしゃるには、練習で泣く子は一人もいなかったとのこと。やはり本番でしか生まれないパワーや感動ってあるんですね。演奏会もおペラも、小さな子ども達の卒園式も同じ。正しく積み重ねた努力と聴き手があってこそ巡り会える、本番なら

ではの感動です。先日、大学の行事予定表を眺めていて改めて思いました。こんなに演奏会の多い大学がほかにあるでしょうか。これは、大音生だけの特権！本番の数だけ努力があり、それゆえの感動があります。学生の皆さんには、出演者として、また聴衆として、できる限りたくさん演奏会に接し、本番でしか得られない学びを多く体験してほしいと思います。

（へ？）なるほど、卒園式の練習を始めたのがバレンタインデーの頃だったのね（笑）。まさか、記念すべき卒園式でチョコのお札を言ってもらえるとは、一瞬ずっこけました。ある意味、最高の、ホワイトデー（？）にもなりました。

私も今年も今年はおペラデビュー15周年。今年も有り難いことに多くの本番を頂戴しています。歌手、教員、そして母親、いろいろな顔を持つ分、時間的、体力的には少々（いえ、かなり！）ハードではありますが、私にとってはすべてが愛しい時間。生活感あふれる歌手、極めつつ（笑）、今年も学生の皆さんやお客さまと感動の時間を重ねられるよう、日々努力を惜しまず精進いたします！というところで、まずは今日も歌合戦のようなレッスンと

この春、息子がピカピカの一年生になりました。3月の卒園式では子ども達が思い思いの、ありがとうの気持ちを書き両親に伝える、という素敵な演出がありました。感極まって涙する女の子続出で「いつも大切にしてくれてありがとう」なんて声を震わせながら言われると、我が子でなくても胸が熱くなります。感動的なメッセージが続く中、息子の番が！何を言うのかな？大きな声で言えるかな？とドキドキしていると、期待以上にしっかりとした声で「おかあさん！チョコくれてありがとう！……」（へ？）なるほど、卒園式の練習を始めたのがバレンタインデーの頃だったのね（笑）。まさか、記念すべき卒園式でチョコのお札を言ってもらえるとは、一瞬ずっこけました。ある意味、最高の、ホワイトデー（？）にもなりました。

